

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)株式会社エージェンシーアシスト様 新社屋 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		欄に数値またはコメントを記入		■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)	
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
		Q 建築物の環境品質					
Q1 室内環境			0.40		-		2.4
1 音環境		2.2	0.15		-		2.2
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.40		-		
1.2 遮音		3.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能		3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-		
1.3 吸音		3.0	0.20		-		
2 温熱環境		2.6	0.35		-		2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50		-		
1 室温		3.0	0.38		-		
2 外皮性能		3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御		1.0	0.20		-		
2.3 空調方式		3.0	0.30		-		
3 光・視環境		2.1	0.25		-		2.1
3.1 昼光利用		1.8	0.30		-		
1 昼光率		1.0	0.60		-		
2 方位別開口			-		-		
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策		2.0	0.30		-		
1 昼光制御		2.0	1.00		-		
3.3 照度		2.0	0.15		-		
3.4 照明制御		3.0	0.25		-		
4 空気質環境		2.6	0.25		-		2.6
4.1 発生源対策		3.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		3.0	1.00		-		
4.2 換気		1.6	0.30		-		
1 換気量		3.0	0.33		-		
2 自然換気性能		1.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33		-		
4.3 運用管理		3.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50		-		
2 喫煙の制御	屋外喫煙スペース、屋内喫煙室を設け分煙している	5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能			0.30		-		3.0
1 機能性		2.8	0.40		-		2.8
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40		-		
1 広さ・収納性		1.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30		-		
1 広さ感・景観		3.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース	リフレッシュコーナーを設け、自販機を設置予定	4.0	0.33		-		
3 内装計画		3.0	0.33		-		
1.3 維持管理		3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計	外部鉄部は溶融亜鉛メッキとする	4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30		-		2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-		
2.4 信頼性		2.4	0.20		-		
1 空調・換気設備		1.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20		-		
3 電気設備		3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.3	0.30		-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.4	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高をなるべく高くした(H=3,900)	4.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	103.6(外壁周長)/2667.82(床面積)=0.04	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			2.8	0.40		-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	2.7
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ計算書による	4.0	0.20		-	4.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.87	2.6	0.50		-	2.6
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			-	-		-	
4.1	モニタリング		-	-		-	
4.2	運用管理体制		-	-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.5
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60		-	2.5
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		3.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.6
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率は一般建築物と同等	3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮			1.8	0.33		-	1.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		-	-		-	
3	交通負荷抑制	運営上適切な量の駐輪、駐車台数とした	4.0	0.50		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.50		-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		-	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	